

(様式2)

令和5年度 県立高校指定校事業（令和4年度指定）単年度計画書

学校名	相模田名 高等学校 (全・定・通)	校長名	平田 智則
指定名	教育課程研究開発校（シチズンシップ教育）	年度	令和5年度
研究主題	シチズンシップ教育の「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに関わる「モラル・マナーに関する教育」を学校全体で組織的に様々な学習活動等を実践して生徒へ働きかけることにより、生徒の次代をたくましく生きぬく知識・能力を培う。		
本年度の研究内容	<p>(1) 本年度の目標</p> <p>本校の研究主題を具体化して「実社会で生きる知恵と経験を獲得する学びを進め、一人ひとりが主体的に生きていく上で必要な能力と態度を養う。」を本年度の生徒に身に付けさせたい力として目標設定する。全教職員がシチズンシップ教育を様々な視点から捉え、学習活動や学校行事等から生徒に働きかけることにより、シチズンシップ教育を通じて育成したい能力・態度を身に付けさせる。教職員においては一人ひとりが「チーム田名」の一員として、学校全体で「シチズンシップ教育」に取り組むことにより、学校組織としての学校運営力や授業力、職員間のコミュニケーション力の向上をめざす。</p> <p>(2) 目標実現のための具体的な手立て</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>シチズンシップ教育の全体像とする「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに関わる「モラル・マナーに関する教育」に、本校独自に領域の一つとして捉えた「主権者教育」の5領域の内容をとり入れた検証授業やその他の活動等を実践することで、教職員と生徒のシチズンシップ教育の目標達成をめざす。</p></div> <p>はじめに、本年度におけるシチズンシップ教育における研究の構想を、全教職員で共有して、本研究における生徒に身に付けさせたい力や研究の手立て等を確認する。神奈川県教育委員会が発行した「シチズンシップ教育（指導用参考資料）」（令和2年3月発行）の、シチズンシップ教育の全体像とする「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに関わる「モラル・マナーに関する教育」に、本校独自に領域の一つとして捉えた「主権者教育」の5領域の内容をとり入れた検証授業やその他の活動等を実践することにより、シチズンシップ教育の目標が実現できるという仮説をたて、次に具体的な手立てを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 全教職員と全校生徒対象に、事前アンケート調査を実施する。</li><li>2 4月に実施する社会見学では、全学年社会見学の行程に応じて各教科担当者が、シチズンシップ教育をとり入れた学習活動を設定する。社会見学の学習活動においては、学習内容に応じて各教科で事前、事後学習を実践し、学習の発信の仕方においても工夫して、生徒へ周知徹底をする。社会見学後に各学年単位で、総合的な探究の時間の中で振り返りを行う。</li><li>3 6月に西野偉彦氏による全校生徒対象のシチズンシップ教育講演会を実施する。</li><li>4 5月から11月を目安に全職員が検証授業を実施する。<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 教職員の検証授業の実施に向けて、教科内で前年度の検証結果や、各科目における指導と評価の計画、本年度の生徒に身に付けさせたい力を踏まえて、協議を行う。</li><li>(2) 教職員全体でシチズンシップ教育の全体像の5領域を手立てとした検証授業の実践に向けて、教科横断的に協議することにより、教員間のシチズンシップ教育についての知識やねらいを深めるとともに、授業力・教員間のコミュニケーション力向上を図る。</li><li>(3) 検証授業については教員間で授業見学等をして、本校独自の研究シート（学習授業案）を共有することにより、シチズンシップ教育について意識を高める。</li></ol></li><li>5 2月に予定している1、2年生対象の「地域連携生徒実践報告会」において、シチズンシップ教育における本年度の実施内容を生徒が発表する。発表会後にワークシートに振り返りを行うことにより、次年度の更なる取組につなげる。</li><li>6 全教職員と全校生徒対象に、シチズンシップ教育の目標達成ができたか、教職員と生徒の変容を確認するための事後アンケート調査を実施する。昨年度の事前、事後アンケート調査の結果から分析して、次年度の研究内容について更に精査する。</li></ol>		

### (3) 成果の検証方法及び取組指標

#### ◆検証方法

年度の始めと終わりに教職員、全校生徒へ本校独自の調査等を実施する。また「魅力と特色づくりアンケート」と「生徒による授業評価」の項目から、生徒の具体的な変容をみることとする。事前、事後アンケート調査は前年度と同様の内容とする。学校独自の調査については、シチズンシップ教育についての基本的な知識の習得や生徒の主体的に学ぶ力、実際にシチズンシップ教育から何か行動におこすことができたか等の調査等とする。社会見学や地域連携生徒実践報告会での振り返りについては、生徒の記述回答を基に成果をみる。事前、事後アンケート調査の数値結果だけではなく、記述回答も含めて検証することで、より具体的な生徒の変容と成果をみる。

#### ◆取組指標

#### 授業評価アンケート

単元（内容のまとめり）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。

回答	令和4年度（実績）	令和5年度（目標）	令和6年度
4. かなり当てはまる	16%	20%	%
3. ほぼ当てはまる	63%	65%	%
2. あまりあてはまらない	19%	13%	%
1. ほとんどあてはまらない	3%	2%	%

授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。

回答	令和4年度（実績）	令和5年度（目標）	令和6年度
4. かなり当てはまる	17%	23%	%
3. ほぼ当てはまる	61%	65%	%
2. あまりあてはまらない	19%	10%	%
1. ほとんどあてはまらない	4%	2%	%

#### 魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート

高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協動的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めたりすることができていると思いますか。

回答	令和4年度（実績）	令和5年度（目標）	令和6年度
4. そう思う	20%	25%	%
3. どちらかといえばそう思う	71%	68%	%
2. どちらかといえば満足していない	7%	5%	%
1. ほとんどあてはまらない	2%	2%	%

その他  
特記事項